

クマツヅラ

『沖縄の有用植物資源』第6回目は、クマツヅラを紹介したいと思います。

クマツヅラというとあまり聞き慣れないと思いますが、生薬名を「馬鞭草(バベンソウ)」と言い、石垣島地方であきちゃみよ草、沖縄本島地方でセンスルーグサ、宮古島地方でンギャギーと呼ばれて、古くから利用されている薬草のことで

野原や低地の道端に生える多年草で、高さが30cmから80cm程です。アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布しています。消炎止痛作用、止血作用、抗菌作用などが知られています。また民間薬として皮膚病に用いられています。



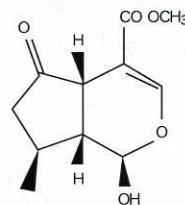
クマツヅラ (クマツヅラ科)

方言名: センスルーグサ、アキチャミヨグサ

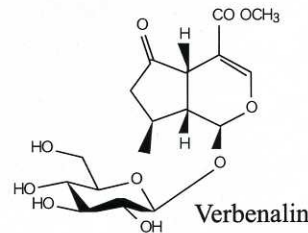
学名: *Verbena officinalis* L.

成分としては、stachyose、eukovosideのほか、止血作用は全草に含まれるverbenalol配糖体のverbenalinによるものであることが確認されています。またverbenalinの抗菌作用が明らかになり、クマツヅラを利用した健康食品や入浴剤として商品化が盛んに行われています。さらに臨床的には抗マラリア効果やジフテリア治療効果も報告されており、今後、健康指向製品としてだけではなく、医薬品としての開発が期待されます。

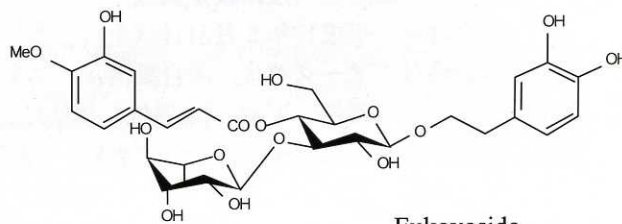
工業技術センターでは、経常研究において、糖尿病予防の指標となる糖類分解酵素阻害活性試験を行い、クマツヅラ全草に α -グルコシダーゼ阻害活性を確認しました。



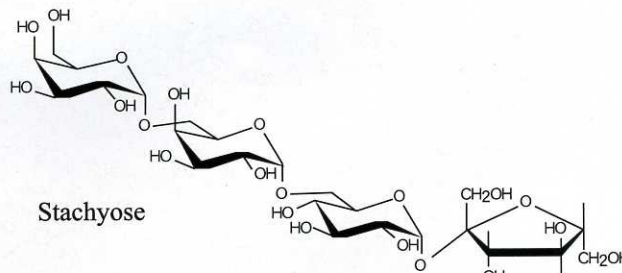
Verbenalol



Verbenalin



Eukovoside



Stachyose

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか編集、1996年発行 平凡社
- ・原色牧野和漢薬草大図鑑 三橋博監修 (1998) 北隆館
- ・中薬大辞典 (1998) 小学館
- ・平成13年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P77-80